

# チェーン店での DVR設置と統合

編集部

**現**在金融機関で使用している監視カメラでは6ヶ月の記録が必要だが、民間チェーン店では10日を1周期として記録している。コンビニエンスストアでは客の出入りが激しいため、1秒間に15枚(15fps)の映像記録が必要とされている。映像送信はMJPEGをMPEG-4に変換して送る。PCベースのほうが多く機能を備えているが、現在では単独型の機能も向上している。今のところ4チャンネルDVRが市場の90%を占め、約10%が8ないし16チャンネルとなっており、店舗規模に合わせて選択している。この他多くのチェーン店舗では大きな帯域幅を必要としており、ネットワークカメラの必要性を検討している。

DVRとPOSシステムの統合以外に、アクセス制御を利用して防犯システムとDVRとの統合も重要で、本部ではネットワーク経由で各店舗従業員の出勤、出荷、顧客動向、販売状況などを把握することができる。また24時間のサービスが可能となり、特に開放的な空間を持つチェーン店では特に必要となる。ソフトウェア主導でセキュリティおよび他システムとの統合を行い、チェーン店の安全を守ることが

きる。その他ソフトウェアを利用した異なるシステムとの統合により、追跡や分析も可能となり、チェーン店が必要とするセキュリティを確保することが実現できる。

現在ではATMをチェーン店内に設置しており、チェーン店に対する各金融機関のATMへの要求も異なる。ATMにDVRを設置している他に、天井にカメラを設置してセキュリティを確保することも多い。チェーン店内のATMは、チェーン店の各種システムとは統合できず、重要なATM関連データは別途保

管する必要がある、また情報流出を避けなければならないため、チェーン店内のATMは一つの独立システムとしてその安全を守らなければならない。

店舗の安全を確保するため、メーカーによっては教育訓練を実施し、各従業員にセキュリティ機器の重要なポイントを理解させている。例えば、カメラ1台を設置しているだけでは死角が多くなることから、屋外や出入口にカメラの増設が望ましい。さらにアクセス制御や盗難防止設備また赤外線センサーなども併用したい。 **AMS**

## セキュリティカメラの セキュリティ以外の利用方法

### 売れ筋商品の分析:

毎月の統計から売れ筋商品の動きを分析：セキュリティカメラの高度情報化分析機能を利用して、売れ筋商品を把握して戦略を調整する。

### 従業員管理効率アップ:

レジでの効率を把握し、釣銭間違いなどの争いをなくすために撮影映像を利用することも重要である。

### 環境、サービスの向上:

コンビニエンスストア同士による競争では、いかに顧客を引きつけるかが重要項目となるため、明確な陳列や購買環境の整備などが非常に重要である。監視カメラを利用して、店舗の混雑状況や時間帯別の顧客動向を把握することも大切である。